



J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課
TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

訪問していますのは、元中 豊一郎です。
携帯 080-4643-6531

今月の話題

- ◆ 春の農作業安全確認
- ◆ 米販売の自己改革の取組み紹介
- ◆ 高品質・良食味に繋がる作付前の事前準備
- ◆ 農政ダイジェスト

メモ

- ✓ ラウンドアップキャンペーン **お早めに!**
3月31日まで
- ✓ JA出荷申出書・水田活用米穀申込書・
カントリー利用申込書提出
3月12日まで



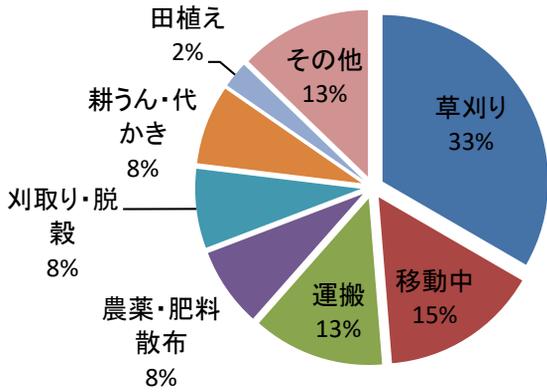
先月の病害虫防除員研修会において産業用マルチローター(通称ドローン)の
情報提供と実演がありました。バッテリーの
問題で1回の飛行時間が10分と短いため、
1フライトの散布面積が1haと少なく、
また自動化されていないため改善され
ば普及されると思われます。散布するには、
免許の取得と登録が必要で、きびしい農
薬散布の規則があります。現在、規模の
大きい農業組合法人・個人農家が導入
されています。利点としては適期に防除
ができることです。

春の農作業安全確認

他産業に比べて、農作業事故は40年間ほとんど減少していません。その経緯には他産業とは違い、労使などの法的な規制はなく個人責任であることが伺えます。そのため、一人一人が作業に対する高い意識を持つ必要があります。

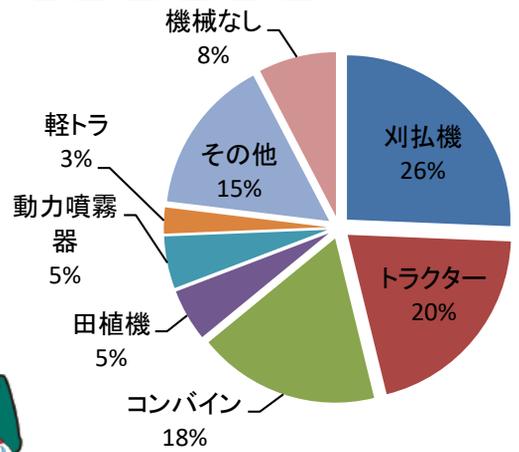
農作業事故における作業別・機械別の傾向

農作業別



草刈り、移動、運搬作業中の事故に特に気を付けましょう！

機械別



トラクター、コンバイン、草刈り機の事故が6割以上！



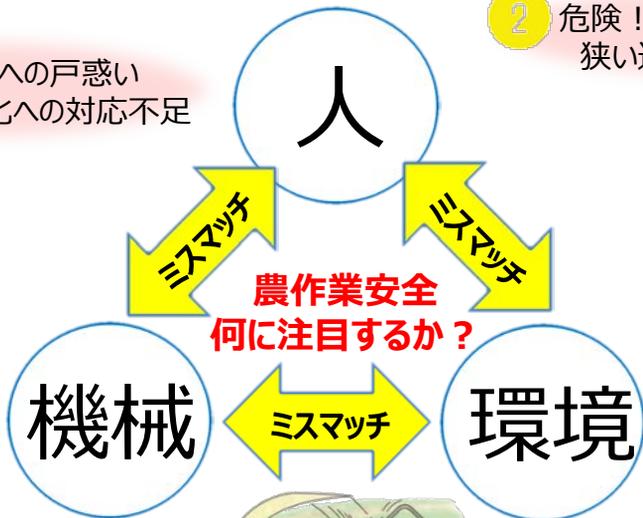
農業における人・機械・環境の課題

農作業事故は、
人⇔機械 人⇔環境 機会⇔環境
 のミスマッチで起こります

① 高性能機械への戸惑い
 一瞬の変化への対応不足



② 危険！
 狭い道、直角カーブ、鋭角カーブ



③ 大型機械を導入したことによる、
 狭い道での転倒！

農作業安全のため、今すぐ必要でしかも最も有効な手段は、作業者自身の**注意**です。また、年齢を重ねると体の変化は止めることができません。自身のペースに合わせ、こまめに休憩をとるなど**無理のない**作業に心がけることが大切です。

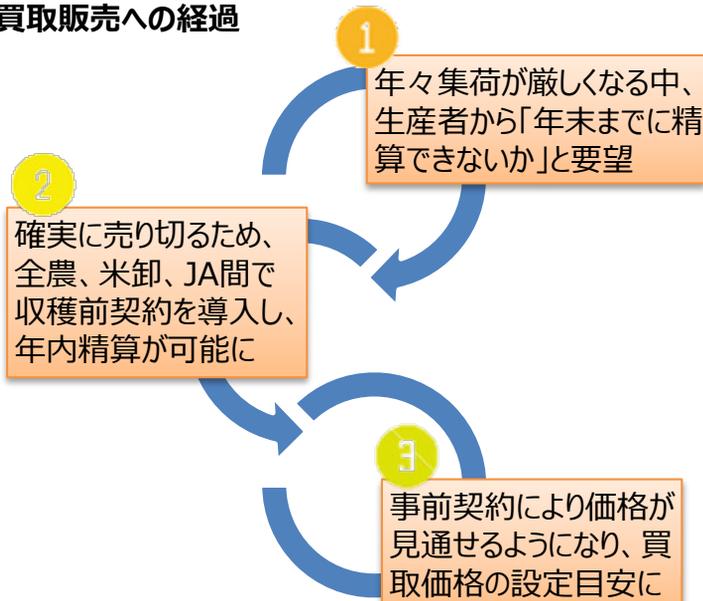
米販売の自己改革の取組み紹介

日本農業新聞 2018年1月23日 論説より

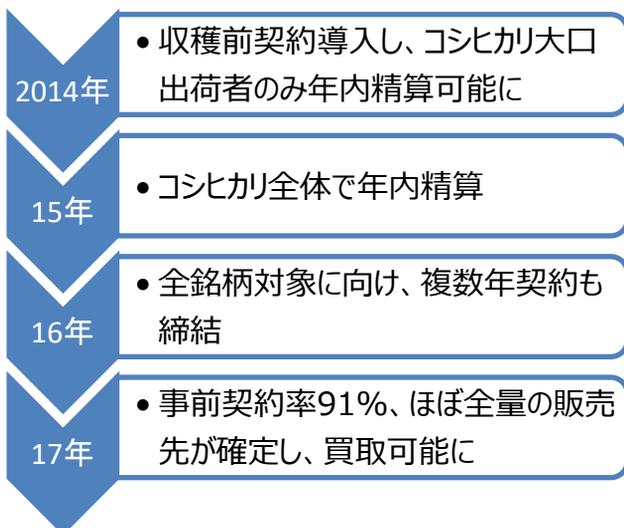
JALレーク伊吹の買取販売について

西日本としては米集荷規模の大きなJAでありながら、JA直売はほとんどなく、9割以上をJA全農しがを通じて米卸に委託販売する、全国でも珍しい取組みと紹介

買取販売への経過



現在までの自己改革の取組み



販売先との信頼関係を構築し、安定取引を確実にすることで、買取販売に踏み切ることが可能に！

米の買い取り

安定取引でリスク回避

J Aの買い取り米が急増している。J Aの集荷力アップと生産者の所得向上が期待されているが、売買差損のリスクを忘れてはならない。

買い取りJ Aのほとんどは、J A直売も手掛け、過去に何度も差損の苦い経験を味わっている。そうした中、J A直売をせずに買い取りに踏み切った滋賀県のJ Aの取り組みが注目される。確実に売り切るために、事前契約や年内精算を3年がかりで進めてきた備えがあった。

米の買い取りは、商業業者との集荷競争で生まれた。概算金3年産米で、差損が発生した買

に1000円ほど上積みし、即金で買い取る商業業者に、「このままでは集荷量が減る」との危機意識で、J Aも概算金に乗せし買い取った。ただ、高値で買い取っても、高値で売れるわけではない。

買い取りJ Aは、赤字とならないようにJ A直売を手掛け、流通ルートの短縮や早期販売による流通コストの削減で、上乗せ金をカバーしてきたが、予想より価格が低下し、赤字が発生するリスクが常に付きまとう。

直近でも、下降に転じた2013年産米で、差損が発生した買

い取りJ Aは多い。直売リスクを抱える買い取りJ Aが多い中、滋賀県の北東部に

直売リスクを抱える買い取りJ Aが多い中、滋賀県の北東部に

直売せずに上積みが可能となったのは、それまでの周到な準備があった。年々集荷が厳しくなる中で、生産者から「年末までに精算できないか」という

要望があった。それまで1年半かかった最終精算が、14年度から「コシヒカリ」の大口出荷者に限って年内精算に踏み切った。この年内精算が可能となったのは、全農、米卸、J Aの間での収穫前契約導入だ。事前に契約することで、価格が見通せるようになった。

翌15年は、年内精算を「コシヒカリ」全体に拡大、16年の全

現在は米の需給が比較的締まり、売り手市場の追い風があるが、需給が緩み始めると「売り先がない」と販売に苦戦した事例もあるため、今後も販売先との結びつきを強め、安定取引を継続することが重要！





いよいよ本格的な水稲作業が始まります！
事前準備を始め**プレミアム88**を目指しましょう！

ステップ1

土作り資材の施用

土づくり肥料（田華の豊稲）施用でpH改善とケイ酸・リン酸の継続補給し生育の促進。

重要!

土壌の酸化を抑え、土壌pHを6.5以上を継続させることにより、カドミウムの吸収を抑える！！

ステップ2

畦塗りによる水漏れ予防

モグラ、ザリガニによる穴を塞ぎ、漏水の防止をおこない、水管理をしやすい圃場をつくる。



JAにて、畦塗りの作業委託受付中！！
(料金60円/m)

ステップ3

耕起作業

排水が悪いと酸素不足になるので、水田をしっかりと乾かし、10～15cm程度を目安に耕起をおこなう。

圃場ポイント

今年は雪が多いので、水田をしっかりと乾かし耕起することが重要！！

ひと月の動き

農政ダイジェスト

農業・地域の雑誌「地上」より抜粋

～定価（税込）606円 購読申込受付中～

農林水産物・食品の輸出額、過去最高へ

農林水産省は、17年1～11月の農林水産物・食品の輸出額が前年同時期比7%増加の約7200億円になったと発表した。12月の輸出額が平年並みならず前年を上回り、過去最高となる。牛肉や茶を中心に、日本食全体の人気輸出を後押ししている。

18年産米の生産量の目安を公表

農水省は、米の生産調整を受けて各道府県の農業再生協議会が設定した、18年産米生産量の「目安」の一覧を公表した。目安を単純に合算すると、前年の生産数量目標(735万t)を約3万2000t上回る。仮に作況が平年作で目安通りに生産が進めば、需要は安定する見通しだ。

土地改良制度の見直し案が示される

農水省は食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会を開き、通常国会に法案提出をめざす土地改良制度の見直し案を示した。委員は、農地を所有者から借りている担い手の意見を、土地改良区の運営に反映させる方向性に賛意を示したが、意志決定の権限や賦課金の負担について担い手と所有者のどちらかに偏らないよう、ていねいに議論を進めるよう求めた。

レーク伊吹の動き

農業組合長会を開催

2月15日～19日にかけて、各地域別に農業組合長会議を順次開催。説明では、水稻共済細目異動申告票・市再生協議会より生産調整の継続的な協力願ひ。また、JAより30年産米の事前契約買取販売方式へ移行の旨や、JA出荷申出書・水田活用米穀申込書・カントリー利用申込書の取りまとめについての説明があった。

農繁期中

土・日曜営業のご案内

	3月	4月	5月
経済センター Tel63-2102	●	●	●
伊吹資材センター Tel55-4080		●	●
米原資材センター Tel52-1014		●	●

●印は土日曜の営業月

●印は土の営業月

営業時間は
8時30分～12時